

1. 調査目的等

小学校2年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

- ・学校の標準偏差値が、前年度比プラス1ポイント以上になる。
- ・アンダーアチーバーの児童(0名)
- ・学力5段階評定1・2の児童(0名)

3. 指標にむけての取組

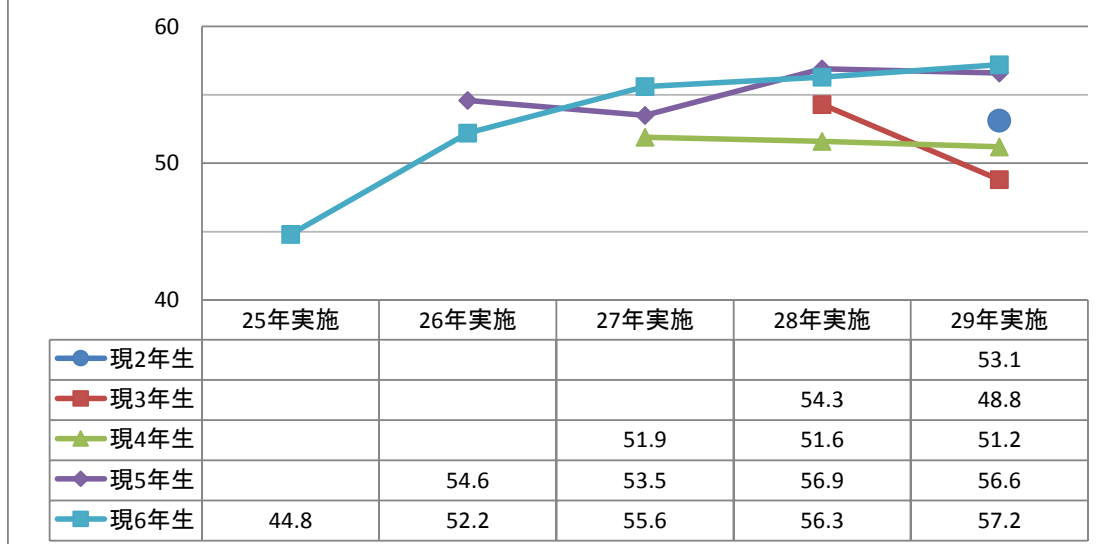
- ・市販の単元テストの結果をもとにした補充を行い、スピーディに課題を解決する。
- ・統一した家庭学習の内容(宿題+自学+明日の準備)を決め、家庭学習習慣の徹底を図る。
- ・補充学習において、算数問題集「アイテム」を活用し、既習内容を確実に終わらせる。

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
本校(A)	47.9	54.2	54.9	55.0	53.8
嘉麻市(B)	49.8	50.0	50.8	50.7	51.5
(A)－(B)	-1.9	4.2	4.1	4.3	2.3
標準偏差値との差 (A)－(50)	-2.1	4.2	4.9	5.0	3.8

各学年の推移



5. 各学校における分析

- ・学年が上がるにつれて、偏差値が上がってきている。これは、各学年における学習の積み重ねの成果だと考える。しかし、学年差があり、学校標準偏差値は前年度より1.2ポイント下がっている。
- ・個人差が大きく、特に低学年において、読む力、書く力、計算力等の基礎・基本の定着が不十分な児童がいる。
- ・ほとんどの児童が毎日の家庭学習に取り組んでいるが、 $(10 \times \text{学年} + 10)$ 分以上の家庭学習時間を確保し取り組んでいる児童の割合は学年により差があり、90～100%達成している学年がある一方、まだ50%に達していない学年もある。
- ・全児童に配布した自主学習で取り組む学習内容を示した「自学メニュー」を参考に、毎日1ページ以上の自主学習に取り組んでいる児童は86%である。

6. 各学校における今後の取組

- ・算数科は全学年複数体制で指導を行い、国語科は、低学年を中心に複数体制での指導を行っていく。
- ・課題である読解力を伸ばすために、課題に対応した研究主題を設定し、主題研究・授業改善に取り組む。
- ・モジュール学習(スイッチオンタイム)の時間を昨年度より5分長くして15分間設定し、課題である読解力・言語力・計算力の向上を図るための学習に取り組ませる。
- ・市統一の算数テストの結果をもとにした個別の復習プリントに取り組ませる。
- ・週末課題については、個別の復習プリントに取り組ませるとともに、月曜日の提出率を95%以上にする。
- ・ $(10 \times \text{学年} + 10)$ 分以上の家庭学習時間を最低確保できる程度の学習課題の量を提示するとともに、学年差があるので、達成が90%以上の学年は100%を目指し、70%以上の学年は90%の児童が時間を確保し取り組むことができたと答えるようにする。また、達成が70%に達していない学年は、2学期末までに70%、3学期末までに90%の児童が時間を確保し取り組むことができたと答えるようにする。
- ・上学年は、土曜未来塾と連携し補充学習を充実させ、下学年は、放課後学習を活用し基礎・基本の定着を図る。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- 基礎基本の徹底を図るための環境を整備する。そのために、以下の事項について支援する。
- 基礎基本の徹底に向け、形成的評価を強化する。また、評価後の習熟度別指導を充実させるよう指導する。
 - 個に応じた支援に向けて、学習の個別化を促進する教材の選定や提示を行う。
 - 基礎基本の定着の強化と家庭学習の習慣化を図るため、学習サポーターを配置した「嘉麻市土曜未来塾」を年間40日程度開塾する。
 - 長期休業中及び放課後等における補充学習、個に応じた学習を支援する。